



報道関係者各位

株式会社コンピュータ・ニュース社
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-25-1
TEL 03-3818-2661 FAX 03-3818-3006

本件に関するお問い合わせは下記にお願いします。

<http://computernews.com/marketview>

ノートの構成比率が上昇傾向を示す

コンピュータの週刊専門紙である「BCN」(BUSINESSコンピュータニュース)を発行する株式会社コンピュータ・ニュース社は、東名阪のパソコン大手販売会社9社(エイデン、グッドウィル、コンプ100満ポルト、コンプマート、CSKエレクトロニクス=T・ZONE、スタンバイ、ソフマップ、九十九電機、ニノミヤ=50音順)288店舗の日次販売データをデイリーで収集し配信するBCNランキング(システム名:BCN Market View)を公表しています。このデータをもとに、BCNの市場調査部門であるBCN総研ではPCリテール市場の動向分析を行っています。

株式会社コンピュータ・ニュース社(本社:東京都文京区、代表取締役社長 奥田喜久男)の市場調査部門であるBCN総研は、ノートPCの構成比率がデスクトップに迫る勢いであると発表した。ノートの低価格化、デスクトップとの性能差の縮小などが主な要因だ。この傾向からみて、年末商戦にはデスクトップとノートの構成比率の逆転が予想される。

図は、デスクトップとノートの構成比率を、1999年10月を起点として追った推移グラフである。1999年10月時点では、デスクトップが56.6%、ノートが43.4%だった。互いの構成比率がそれぞれ50%に近づき始めたのは、2月(デスクトップ53.9%、ノート46.1%)であり、7月にはデスクトップ50.8%、ノートが49.2%というように、ほぼ50%の構成比率となった。

この要因として、ノートの低価格化の進行、デスクトップとノートの性能差の縮小が考えられる。

2000年2月のデスクトップ1台あたりの販売金額(総販売金額÷総販売台数)は16万8,048円、ノートは24万42円だったが、8月にはデスクトップが16万1,829円、ノートが21万9,249円となっている。デスクトップ1台あたりの販売金額差は6,000円ほどであるのに対し、ノートはおおよそ2万円の下落である。NEC、ソニー、富士通、日本IBMなどの大手PCメーカーが低価格ノートをエントリーモデルとして位置づけ、拡販に力を入れている状況とユーザーのニーズが合致した結果といえる。ノートの低価格化傾向は今後さらに進み、今年の年末商戦では、21万円台に突入するだろう。

ノートの性能の向上という面では、人気機種であるNECの「LaVie C LC50H/34DA1」を例すると、CPUにMobile Celeron500MHz搭載、メモリー容量64MB、HDD容量10GB、CD-ROMドライブを搭載し、実売価格は21万7,100円である。性能面で、デスクトップと比肩しながら、省スペース性を実現している点が人気の要因だ。実際、実売価格20万円を切りながら、「LaVie C LC50H/34DA1」とほぼ同様のスペックを有するノートも多く、ノート人気を支える大きな勢力となっている。

年末商戦では、各ハードメーカーは、さらに性能を向上させた低価格ノートを投入してくる。現在の傾向を考えると、デスクトップとノートの構成比率が逆転する可能性は大きい。



図 デスクトップとノートの構成比率推移

